

研究推進支援本部 Presents

Sci-Comm. Café

科学コミュニケーションカフェ

第2回：学際研究をはじめよう

1. 学際研究とその潮流
2. 事例紹介「学際研究やってみました」 講師：海部健三 法学部教授
3. ミニプレゼンテーション&ディスカッション

知のコスモポリタン。

純粋な知の探究から社会課題・地球規模課題解決に至るまで、
自然科学、人文社会科学といった垣根を超えた研究の存在感が増しています。
世界的な潮流から学際研究の実際、
そして新しい研究のアイデアについて語らいます。

7月1日（木）17:00～18:30

講師：海部健三（法学部教授）

ファシリテーター：福井智一（研究推進支援本部URA）

会場：オンライン（Webexミーティング）

終了後30分程会場を確保しておりますので、情報交換や交流の場としてご利用ください。

対象者： 本学所属の研究者

（教員から大学院生まで、専門・所属を問わず）

- ・学際、文理融合研究に興味・関心がある方
- ・学際研究のパートナーを探している方
- ・ウナギの保全生態学に興味がある方

登録： <https://forms.gle/9yH3AVYP6Fcins9GA>（Googleフォーム）

お問い合わせ： 研究推進支援本部 chuo-ura-grp@chuo-u.ac.jp



学際研究をはじめよう！

学際、文理融合、分野横断的研究・・・さまざまな名で呼ばれる、異なる学問分野との共同研究の存在感が高まっています。

なぜ学際研究なのか、どうやって仲間を集めるのか、どんな障壁・困難があるか、そしてどうやってそれを解決するのか？カジュアルなプレゼンテーションとディスカッションで情報共有します。

事例紹介「学際研究やってみました」

前半では、絶滅危惧種となったニホンウナギの持続的利用のため、様々な分野の専門家と共同で研究している本学法学部の海部健三先生にお話をうかがいます。

海部先生より「異分野の研究者との出会い、学際研究ならではの面白さや悩みなど、私が経験した分野横断型の研究について、天然ウナギと養殖ウナギはどっちが美味いかテスト、ウナギすごろくの作成、ウナギ学際研究チームの立ち上げなど、いくつかの事例を紹介します。皆様の悩みや成功体験も共有していただければ大変ありがたいです。」

ミニプレゼンテーション&ディスカッション

後半では、研究者のみなさまに学際研究について3分間のミニプレゼンテーションを披露いただきます。ジャストアイデアから進行中のプロジェクトまで、自由闊達なディスカッションとグループ作りの機会を提供します。

発表ご希望の方は、以下のリンクよりエントリーください。

<https://forms.gle/7vqGFmyzwJLf5JvQ9>

×切：6月21日（応募人数が規定に達した段階で早めに締め切る可能性があります。）

一般参加エントリーはこちら

<https://forms.gle/9yH3AVYP6Fcins9GA>

講師：海部健三（法学部教授）

一橋大学社会学部卒業後、社会人を経て生物学・生態学を学ぶ。修士課程ではタコの聴覚、博士課程ではウナギの生態を研究。現在の専門分野は保全生態学、特にウナギ属魚類を対象としている。

ファシリテーター：福井智一（研究推進支援本部URA）

京都工芸繊維大学大学院卒（学術博士）。ショウジョウバエ遺伝学研究の後、青年海外協力隊としてケニア野生生物公社（KWS）にて環境教育に携わる。帰国後、写真家活動、予備校講師を経てJST日本科学未来館にて科学コミュニケーションに携わる。2020年10月より現職。

研究推進支援本部は、中長期事業計画に基づき学際的研究推進プラットフォームである「**Cognitive Diversity**」コンソーシアム実現を目指しています。「**学彩プログラム**」は、その包括的な取組としてURAが中心となって取り組んでいる研究推進活動です。

「**科学コミュニケーションカフェ**」は、学彩プログラムのひとつ、「共創の場の提供」に位置付けられており、本学研究者に科学コミュニケーションの考え方や技術をつたえることにより、学際的研究基盤形成、研究者個人の能力向上、および大学の社会貢献に寄与することを目的としています。